



カケスさんと歩こう！

なつ
夏の

あおばこうえん

青葉公園ガイドブック



目次

1. カケスさんからのお願い・・・ 2ページ
2. 青葉公園の植物・・・・・・・・ 3ページ
3. 青葉公園の昆虫・・・・・・・・ 6ページ
4. 青葉公園の動物・・・・・・・・ 8ページ
5. 青葉公園の歴史・・・・・・・・ 13ページ
6. 巨木（15本）のデータ・・・ 14ページ



オオアマドコロ



ルリハムシの仲間

■監修 中原直彦（なかはら・なおひこ）

公益財団法人ちとせ環境と緑の財団

事業課 緑化振興係

電話 0123-22-1117 FAX 0123-22-1118

HP <https://www.chitosekankyoku-midori.or.jp/>



2026年 8月発行

公益財団法人ちとせ環境と緑の財団



カケスさんからの お願い

次の4つを守り、夏の青葉公園を楽しみましょう。

- 1 コースから外れて踏み荒らさないように歩きましょう。
- 2 知らない草や虫には、触らないようにしましょう。
- 3 ウルシ、ダニ、ハチなどに注意しましょう。
- 4 千歳市などからのヒグマ出没情報を確かめましょう。



【カケスさんのプロフィール】

- ・小学校講師 専門は環境学習、アイヌ文化学習
- ・千歳市市民活動交流センター「ミナクル」にも勤務
- ・趣味はブルーグラス・バンド
- ・北海道苫小牧市生まれ



カケスさん (中原直彦氏)

(公財)日本自然保護協会 自然観察指導員
しこつ湖自然体験クラブ*トウレップ理事
千歳アイヌ文化伝承保存会 会員

< 夏の服装・持ち物 >

- ・熱中症予防のため、飲み物を用意しこまめに飲みましょう。
- ・帽子(白色系)をかぶると日差しをさえぎり、スズメバチ対策にも役立ちます。
- ・タオル(白色系)は首に巻いて虫よけにする他、濡らして冷やすなどに使えます。
- ・スズメバチの巣に近づいてしまった時、黒っぽい服装や髪はヒグマの姿と認識した蜂を刺激してしまいます。全身が白色系の方がそれを避けられます。



巨木をめぐるウォークラリー 青葉公園コース図



巨木（15 本）のデータ

巨木をめぐるウォークラリーのコース内にある巨木（15 本）の胸高幹周、樹高、推定樹齢、推定年号は、次のとおりです。

No.	樹木名	胸高幹周 (株立ちは主幹)	樹高 (約 m)	推定樹齢 (約年)
①	ハルニレ	372cm	24m	250年
②	ハルニレ	335cm	21m	250年
③	ミズナラ	335cm	20m	250年
④	ミズナラ	374cm	23m	250年
⑤	ミズナラ	329cm	20m	250年
⑥	ミズナラ	328cm	23m	250年
⑦	ミズナラ	328cm	19m	250年
⑧	コナラ	321cm	26m	200年
⑨	ミズナラ	329cm	19m	250年
⑩	ミズナラ	295cm	18m	200年
⑪	ミズナラ	334cm	18m	250年
⑫	ミズナラ	307cm	20m	200年
⑬	カツラ	286cm	21m	300年
⑭	カツラ	321cm	18m	300年
⑮	カツラ	384cm	22m	350年

(令和3年 財団調査)



青葉公園の植物

何はともあれ**まず**は、**この植物**を覚えましょう！

触ると「かぶれる」人も多い、毒のある植物です。個人差がありますが敏感な方は、激しいかゆみが起こり肌が赤く腫れてしまいます。青葉公園にもいたるところに生えています。

このアレルギー性・接触性皮膚炎は、その名も「ウルシオール」という物質によるものです。特に敏感な方は、ウルシに触れなくとも近くを通っただけでかぶれを起こします。1～2日後に症状が現れる場合が多く、外用薬が必要となるほか、ひどい場合は皮膚科を受診しカルシウム注射をすることになります。

ぜひ最初によく覚えて、注意しましょうね！



ツタウルシです。つやのある3枚の葉が特徴。地面にも広がっています。

「つた」だけあって、日光を求めてよく樹の幹を上ります。
左側に並んでいるのはツタウルシではないのが分かりますか？

もうひとつはヤマウルシです。

たくさんの葉が付いた葉柄が放射状に枝先に伸びます。葉柄は赤色を帯びています。幹は枝分かれが少なく、シュルツと伸びている感じの樹です。これもツタウルシと同様に、いわゆる「ウルシかぶれ」をおこす事があります。

どちらのウルシも秋には一番初めにとても美しく紅葉しますので、よく覚えて気を付けましょう。



ヤマウルシも日光を求めて林の縁から明るく開けた所へ、幹をシュツと伸ばしていることがよくあります。

初夏から夏にかけてはこのような小さな粒つぶの花・実を付けています。

この実は秋・冬には野鳥たちが好んで食べます。

青葉公園の歴史

青葉公園は市街地に隣接地に接近する都市公園ではあるが、戦前は国有林の保安林として守られてきたために森林が比較的良好に保存されてきました。(通称「神社山」と呼ばれていたそうです。)

1952年(昭和27年)に、公園の名称を一般公募により「青葉公園」に決定し、翌年に総合公園として都市計画決定を受けています。(公園の名称として他に鶴ヶ台公園、緑ヶ丘公園、宮ヶ丘公園などの提案もありました。)また、1954年(昭和29年)に、千歳町が払い下げを受け「青葉公園」が誕生しました。

1973年(昭和48年)11月、千歳市の緑化整備計画に基づき依頼を受けた北海道大学附属植物園の調査によると、公園内には、386種の草木が自生しており、最奥部には貴重なオシダ・フユノハナワラビ・ナツボウズが多く残り、自然植生のよく保全された一角は自然植物園、野草園的な地区にするのが望ましいとされました。

現在は、林内には、ミズナラやイタヤカエデなど大径木が残されており、都市の直近にありながらキツツキ類やカラ類などの野鳥と出会えます。また、陸上競技場などのスポーツ施設や散策路なども整備され、公園の面積は102.3ヘクタールとなっており、千歳市民にとってもっとも身近な自然といえる存在となっています。

(参考資料:新千歳市史 通史編 上巻、下巻)

青葉公園の主演は1年
を通じて何と言っても
「**巨木たち**」ですね！

幹の直径が1mを超える
とても大きな**ミズナラ**
などの樹々が、青葉公園に
は数多く生きています。

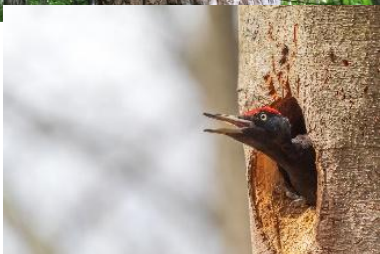
ちとせ環境と緑の財団
主催の「巨木をめぐるウォ
ークラリー」のコース図
(マップ)を15ページに
付けますので、ぜひ巡って
みて下さい！



大きな樹の幹に、縦に長い穴が深く
開けられています。

これはキツツキの仲間では最大の
クマゲラが幹にすむアリを食べる
ために開けたもの。

天然記念物の野鳥が青葉公園を確か
に使っているのです。先住民族アイヌは
「チブ・タ・チカップ(丸木舟を彫る
鳥)」と呼んでいます。



きれいな水色、夏にぴっ
たりの涼しげな色合いで
すね。

エゾアジサイです。
野生のアジサイのひとつ
で暗い林の縁などにひっ
そりと咲いています。
ツルアジサイと比べて観
てください。

紫色の、形の帽子のような花は
エゾトリカブト。

猛毒で有名な植物ですね。間違っ
ても食べないこと！特に春の山菜
の時期には、ニリンソウの葉と似
ていて見間違いやすいので注意が
必要です。

かつてアイヌ民族の毒矢にも使わ
れました。



7月中頃に暗い森の樹々の
下に咲く大きなラッパの形の
ユリは**オオウバユリ**。

「ゆり根」ができます。
アイヌ民族はその「でんぷん」
を食糧として利用したので、
とても重要な花です。アイヌ
語では「トゥレップ」です。

2 青葉公園の昆虫

初夏から夏にかけての季節は、まさに昆虫たちが羽化し繁殖のために動き回る躍動感に満ちた季節です。地球は「昆虫の惑星」と言われるほど、動物の中で昆虫は圧倒的に多くの種がいるのですから、実は青葉公園だけ見ても何種類の昆虫が暮らしているのか、正確には解らないのです。

花や樹液を求めて飛び回り、子孫を残すために活動する昆虫の世界に近づいてみましょう！



ぬけがら 何年も地中で暮らし、朝早い時間に土の中から這い出して幹に登って羽化します。



夏の暑い日、にぎやかに鳴くのは**コエゾゼミ**です。オスが腹の発音器を振るわせて大きな音を立ててメスを呼んでいるのです。抜け殻は簡単に見つかりますが、樹の高い幹に登って鳴いている姿を見つけるのは難しいかも知れません。音を頼りに注意深く静かに探してみてください。

ゼミの仲間は短命と言われます。たしかに繁殖するために地上に出てからは数日で息絶えてしまいますが、地中で樹の汁を吸って成長する時代は長いので、短命と言うよりは「じっくりタイプ」の昆虫ですね。



枯れかけた樹の幹では、キノコの仲間が仕事です。硬い植物の遺骸も分解して土をつくる大切な仕事です。



「**ドングリ**」から芽生えたばかりの**ミズナラ**の赤ちゃんです。

運が良ければ、これから何百年も生きるかも知れませんね！



樹の幹に、こんな傷をつけたのは誰でしょう？

これは**エゾシカ**がツリバナの木の水皮を食べた跡です。





とても美しく、
かわいいへびに青葉
公園で出会った事が
一度だけあります。
その名も**ジムグリ**。
これはまだ子ども
で成体になると 70cm
ほどになります。

いつも土の中に暮らすので
「地潜り=じむぐり」。

ですから、めったに見かける
ことはありません。

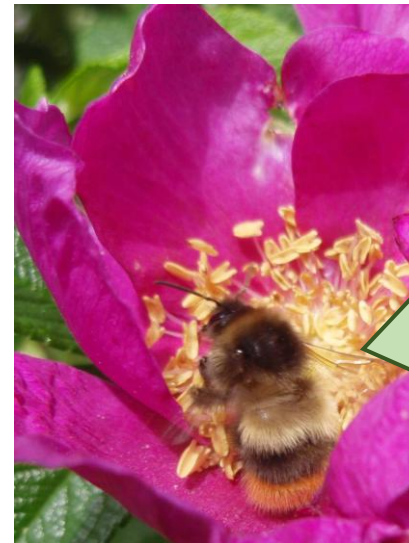
見ることができたらラッキー
ですね。



これは**ノリウツギ**。

これもアジサイ（ユキノシタ
科）の仲間ですので「飾り
花」が白くて目立ち、多くの
昆虫を呼んでいます。

「糊（のり）空木」と書くよ
うに、皮の内側がねばねばし
ています。北海道ではサビタ
と呼ばれます。



さまざまな昆虫が花の蜜や花粉を目
当てに花を訪れます。もちろんその代
表は蜂たち。**マルハナバチ**の仲間
が楽しそうな羽音を立ててハマナスの
花を飛び回っています。

もしそのマルハナバチのお尻の毛が
白かったら、それはセイヨウオオマル
ハナバチ（西洋大丸花蜂）という外来
種です。植物の受粉に大きな悪影響を
及ぼす問題があります。

とても美しい緑色の金属光沢
の昆虫は**アオカナブン**です。
花粉を食べようと花から花へ飛
び回ります。甲虫の中ではとて
も巧みな飛び方です。固い外羽
の下から大きく柔らかい内羽を
出して、よく飛び回ります。



3 青葉公園の動物

都市に隣接している割に自然度の高い青葉公園には、多くの動物も住んでいます。

最も大きなものはエゾシカ。最近の特によく観られるようになりました。エゾリスもいます。葉が茂った夏の森では見つけにくいですが、葉の落ちた冬には樹から樹へ飛び移るように移動するかわいらしい姿を観ることができます。エゾシマリスは地上性で冬眠する生態をもつ事もあり、青葉公園ではめっきり観ることがなくなっていました。さびしい事です・・・。

ここでは、たくさん見かける「カタツムリ」の仲間からご紹介します。



これらは全て、**サッポロマイマイ**です。濃い茶色の帯が殻にあるのが特徴ですが、なぜか青葉公園には、帯のない「白い」タイプのサッポロマイマイがほかの地域よりも多く観られます。



小さなトカゲの仲間、その名も**カナヘビ**。青葉公園の人気者です。小さな爪の付いた足ですばやくちょろちょろと走り回りますので、「カナチヨロ」というあだ名でよく呼ばれています。

上の写真は成体（おとな）で、体長 18 cm ほどありますが、体の半分以上は尾です。下は 10 cm に満たない生まれたばかりの幼体（こども）のようです。かわいいですね！トカゲの仲間はヘビとともに爬虫類です。落ち葉の下の小さな虫などを食べています。